

道徳の時間で活用する ～希望と勇気、努力と強い意志～

田布施町立田布施西小学校 大田 朋代

1 本場面におけるポイント

● **資料と自己をつなぐことに生かす**

「私たちの道徳」の絵や問いかけを見て、自分の体験を想起することで、課題意識をもって資料に入っていくことができるようにする。

● **読み物資料として活用し、自己の考えを深めることに生かす**

役割演技等を行うことで、「私たちの道徳」の読み物資料の主人公と同化させ、主人公の葛藤に共感することができるようにする。

● **振り返りの場面で、自己のよさに気付くことに生かす**

自分から進んでできたよいことと、その時の気持ちを「私たちの道徳」に書き込むことで、自己のよさに気付くとともに、これからの生活への実践意欲をもつことができるようにする。

2 授業の実際

1 主題名 よいと思うことはすすんで『ぼんたとかんた』

2 ねらい 裏山に行くかどうか葛藤しながらも、自分で行かないことを決めたとぼんたの気持ちを考えることを通して、よいことをした時の気持ちよさに気付かせ、正しいことを進んで行おうとする心情を育てる。

3 展開

(1) 導入

教師：みんなもこんな場面に出会ったことがありますか？
 A児：あるある！落書きしている人を見て、いけないなって思ったよ。
 B児：電車でおばあさんと席をかわろうかどうか迷って、ドキドキしたよ。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「私たちの道徳」1・2年生用P34～35の絵と文を見て、どんな場面か、また似た経験がないかを話し合い、正しい判断が必要とされる身近な生活場面を想起させる。

ここでは、どうすればよいか結論を出すのではなく、どうすればよいか分かっていながらも、自己の行動決定に迷う気持ちを引き出す。



「わたしたちの道徳」P34～35

(2) 展開 (主な教師の発問と児童の発言)

教師：一人でじっと考えていたぼんたは、どんなことを迷っていたのでしょうか。
ハートグラフに気持ちを書きましょう。

E児：お母さんにおこられるかもしれないから行かない。

F児：ルールなんてやぶってもひみつにすればいいさ。

教師：しかられなければやってもいいよね？

G児：もしぼくだったら、ばれなかったらやろっかなと思う。

H児：でも、やったらお母さんを心配させるから行きたくない。

I児：けがしたら大変だし、二人で悪いことをするのはこわいよ。

教師：どうして決まりがあるのかな？

J児：みんなが安全に楽しく遊ぶためかな。

K児：けがしないためだし、みんなを心配させないためだよ。

教師：ぼんたとかんたが最後になっこりできたのはなぜでしょう。ぼんたとかんたになって、お話してみよう(役割演技)。

L児：危ないと分かって安全に遊べてよかったね。

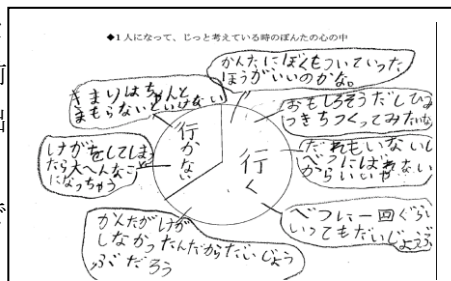
M児：うん、きまりを守れてよかったね。教えてくれてありがとう。



□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

ハートグラフを用いることで、裏山に行こうとする心と、行くまいとする心の両面を捉え、建前ではなく、自分の心に内在する善悪の両面を表出することができるようにする。

また、役割演技では、教師対児童や児童同士で行い、主人公の行動や心情を迫体験させる。



(3) 終末

教師：みんなもよいと思うことを進んでしたことがありますか。また、迷ったけれどがんばって正しいと思うことをしたことがありますか。

N児：休み時間に早く遊びたくて、ろう下を走ってしまいそうだったけど、あぶないなと思ってがまんして歩いたよ。

O児：自分のじゃなくても、教室に落ちているゴミを進んで拾って、ほめられたからうれしかったよ。

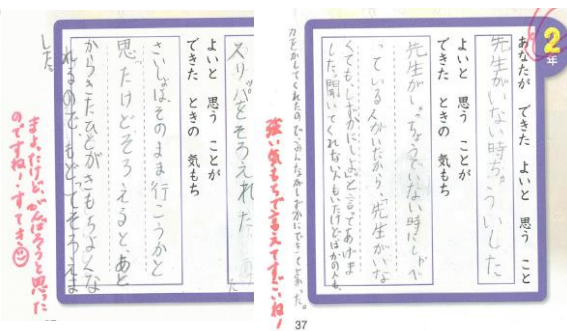
□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

自己の振り返りでは、「私たちの道徳」P37をワークシートとして活用し、「進んでできたよと思うこと」「よと思うことができたときの気持ち」を書かせることで、自己のよさに気づき、今後の生活への意欲を高めることができるようにする。

3 実践を振り返って

「私たちの道徳」P37は、自己のよさを改めて振り返る際に効果的だった。ワークシートにコメントを書き、教室掲示することで、さらに児童の道徳的実践意欲の高まりがみられた。

読み物資料「ぼんたとかんた」は、内容項目1-(1)にも深くかかわる題材であることから、望む児童の姿を明確にし、教師がねらう価値を絞って、児童の発言をつないでいく必要性を改めて感じた。



「わたしたちの道徳」P37